

令和3年度 学力向上プラン

学校名 中央区立宇佐美学園

学校の教育目標

- | | |
|---------------------|--------------------|
| ○じょうぶになろうと努力する子（健康） | ○自ら考え進んで努力する子（自主性） |
| ○人を愛し自然を愛する子（生命尊重） | ○学び合い高め合う子（社会性） |

教育目標を達成するために学校として重点的に育成を目指す資質・能力（確かな学力向上にかかわる内容）

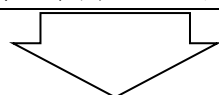
- | | | | |
|-----------|----------|---------------|----------|
| ○分かる授業の実践 | ○基礎基本の定着 | ○体験活動を取り入れた授業 | ○教員の資質向上 |
|-----------|----------|---------------|----------|

令和2年度「学習力サポートテスト」や令和2年度学力向上プランの検証結果等の分析や、日常の学習の様子等から見られる課題及び要因

	児童・生徒の学力の課題	主な要因
国語	<ul style="list-style-type: none"> 「学習力サポートテスト」の結果から言語についての知識・理解・技能に課題がある。 「学習力サポートテスト」の結果から、書く能力に課題がある。 全観点において、第4学年の「学習力サポートテスト」の結果が全国正答率を下回っており、課題が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体の定着率を上げるため確認テスト等を行い、繰り返し漢字学習を行い定着させる必要がある。 書く目的や相手意識を明確にするため日常的な指導が必要である。日記や通信を書いた後に読み返す習慣を付け、指導をさらに丁寧に行う必要がある。
算数	<ul style="list-style-type: none"> 「学習力サポートテスト」の結果から数学的な考え方に課題がある。 速く正確に計算する力に差があり、ケアレスミスなどがある。 「学習力サポートテスト」の結果から数量や図形についての知識・理解に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な事象に対しての問題場面を想定したり、説明したりする力が定着できるように学習の工夫が必要である。 繰り返し丁寧に計算練習をする時間の確保や正しく計算ができるように桁をそろえて書く等の支援が必要である。 具体物から抽象物へ思考ができるよう、スモールステップでの指導が必要である。
社会	<ul style="list-style-type: none"> 全観点において、第4学年の「学習力サポートテスト」の結果が全国正答率を下回り、課題が多い。 第5学年は社会的事象についての知識・理解に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料を読み取る時間の確保がさらに必要である。 資料提示の工夫をするなど興味関心がもてるように教材準備を行う必要がある。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 全学年において、「学習力サポートテスト」の結果から自然事象への関心・意欲・態度に課題がある。 全観点において、第4学年の「学習力サポートテスト」の結果が全国正答率を下回り、課題が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常的に自然事象に興味関心がもてるように資料を提示する必要がある。 学習内容を定着させるためにまとめ、練習問題等を行う時間の確保が必要である。 既習事項と実体験を結び付け、日常の事象と対応させながら学習することが必要である。

英 語	<ul style="list-style-type: none"> ・聞き取る力はあるが、語彙の定着に課題がある。 ・コミュニケーション能力はあり、ジェスチャーを交えて意欲的に伝えようとはしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発話量を増やす必要がある。 ・主体的にコミュニケーションできる態度を養うため学期に一度行っている英語活動を今後も継続する必要がある。
体 育	<ul style="list-style-type: none"> ・握力・立ち幅跳びの結果が全体的に全国平均を下回っている。 ・ソフトボール投げの結果には、個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃の運動量や運動経験の差が大きいいため、個に応じた対応をする必要がある。 ・基礎的な力を養うため、コーディネーショントレーニングの要素を取り入れた運動を行う必要がある。

学力向上に向けた視点	年度末までの目標及び指標
①学力基盤	授業前のあいさつ、発表の仕方、話の聞き方など、授業規律を学園のきまりをもとに発達段階に合わせて指導し、1学期中にすべての児童に定着させる。めあてをもたせ、自己評価、相互評価、振り返りを行うことで意欲の向上、継続を図る。東京ベーシック・ドリルなど既習事項の復習をする時間を設定し、基礎・基本の定着を図り、年度末には、全学年の診断テストが80%以上の正答率とする。
②授業改善	一人一人の課題を十分把握し、机の配置や学習形態を工夫するなど、少人数指導のよさを生かした指導を行う。また、教材・教具の工夫、補充問題や発展問題の準備をするなど個に応じた指導を2学期までにすべての教科等で実施する。全国学力・学習状況調査や東京都学力向上を図るための調査で全国正答率を上回る。
③教員の指導力	1週間に1時間以上授業観察をし、OJT 研修会で教材研究や発問の仕方等課題と成果の確認を月に一度行う。全担任が、中央区スタンダードをもとにした問題解決型学習の授業ができるようにする。研修会等で習得したことを報告するなど、互いに学び合う場を設定する。
④家庭との連携	時間の使い方、学習の仕方などを寮と連携し、児童が毎日1時間以上集中して学習に取り組めるようにする。宿題の提出率を100%にする。
⑤体力向上	朝の時間、休み時間に健康活動の時間を取り入れ、体力向上を図る。年度末に握力、立ち幅跳び、ソフトボール投げの記録を測定し、全国平均を上回るようにする。



【目標達成のための具体的な取組内容】

①学力基盤	
取組 I	全教職員で共通理解し、発達段階に合わせた授業規律、話の聞き方など学習のルールを徹底し、できるようになったことを評価する。

取組Ⅱ	チャレンジシップの振り返りを丁寧に行うとともに全校が見合うことができる場所に掲示し、日常的に自己評価、相互評価を実施する。
取組Ⅲ	朝の時間、放課後等に既習事項の復習をする時間を設定するとともに教職員で個別指導を行う。

②授業改善	
取組Ⅰ	ノート等を毎時間確認し、一人一人の課題を明確にし、個に合わせた支援、指導を行うことで、全ての児童が主体的に学習に取り組むことができるようにする。
取組Ⅱ	学習内容に合わせた机の配置、学習形態で授業を行い、児童が対話し、学び合うことができるように工夫する。
取組Ⅲ	個に合わせたワークシートや発表の方法を選択することができるように工夫し、きめ細かい指導を行う。

③教員の指導力	
取組Ⅰ	共通の視点で教員相互に授業観察を行い、OJT研修会で成果と課題を話し合うことで、授業改善の方法を検証する。
取組Ⅱ	「中央区小学校授業スタンダード」「中央区小学校英語スタンダード」を参考に授業を行い、授業記録をもとに授業の改善点を明確にして、対応する。
取組Ⅲ	参加した研究会の報告会、自主研修した内容の共有、参考文献の紹介をするなど学び合うことができるようにOJT研修会だけでなく、時間を設定する。

④家庭との連携	
取組Ⅰ	寮での学習の時間を計画的に過ごすことができるように、一人一人に合った学習計画を作成し、支援が必要な児童については特に、担任と寮で週2回以上の打ち合わせと対応策を共有し、連携を密にする。
取組Ⅱ	日記を書くための目的を明確にし、計画的に書きたいことを中心にをはっきりと書くことができるように指導する。
取組Ⅲ	寮と担任が連携し、意欲が継続するような声掛けをする。寮の職員が、音読を聞いてカードにサインをしたり、児童が頑張っていたことを担任に伝えたりする。

⑤体力向上

取組Ⅰ	毎日朝の時間にペースランニング・リズム運動・ボール投げ・短縄などを計画的に取り組む。また、放課後には一輪車の練習を週3回実施する。
取組Ⅱ	学習指導要領に対応した教材研究に加え、コーディネーショントレーニングの要素を取り入れ、教材教具の工夫・施設の充実を行い、全ての学年の体育の授業で実践する。
取組Ⅲ	日常的に運動に親しむことができる場を設定し、休み時間等を活用し、児童が主体的に体力増進できるようにする。